

みんなでつながる わ！



今回は、6年生の授業の様子を紹介します。

6年生は、宮沢賢治の「やまなし」を学習しました。宮沢作品は、なかなか理解することが難しいことも…。作品に表現されている内容を絵に表すことで、想像力や気づきを促す方法を実践していました。

作品の世界を想像しながら読み、考えたことを伝え合おう
「やまなし」6年生

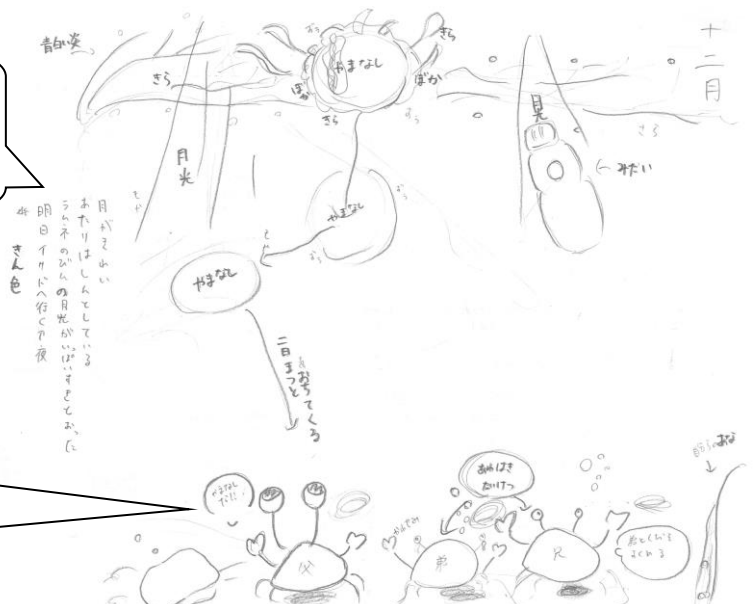
絵に表現することで、想像力を働かせるだけでなく、細かいところまで文章を読もうとする姿勢が見られました。

学習の流れ

- ① 資料「イーハトーヴの夢」を読み宮沢賢治の生き方・考え方にふれる。
- ② 「五月」の世界観を情景や表現に着目し、絵や文を使って表現する。
(五月は個人で考えたものを全体で共有)
- ③ 「十二月」の世界観を同様に、絵や文を使って表現する。(グループ)
- ④ 「五月」と「十二月」を対比し、題名にせまる。

匂いや色、宮沢賢治特有の表現にも着目していました。

「遠眼鏡のような両方の目をあらん限りのばして…」

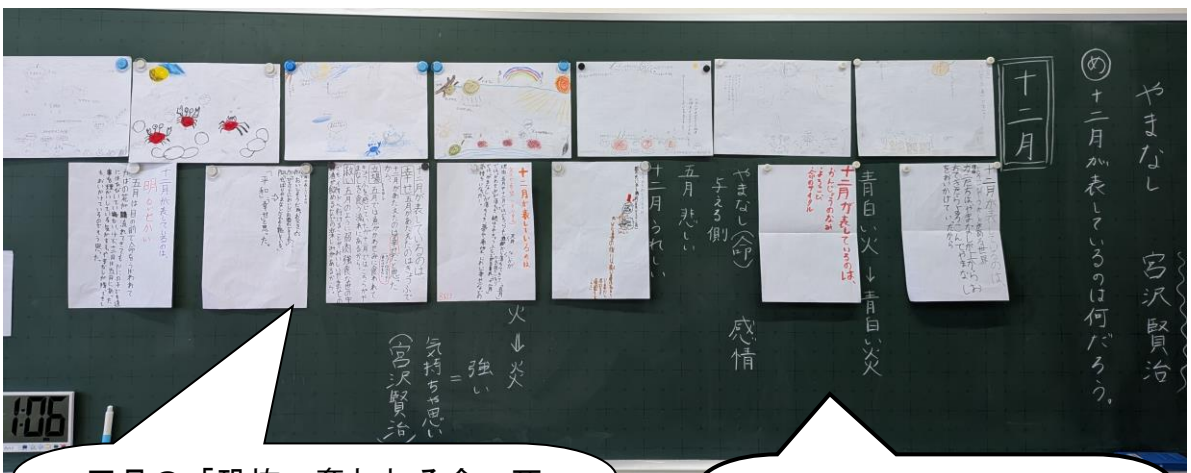
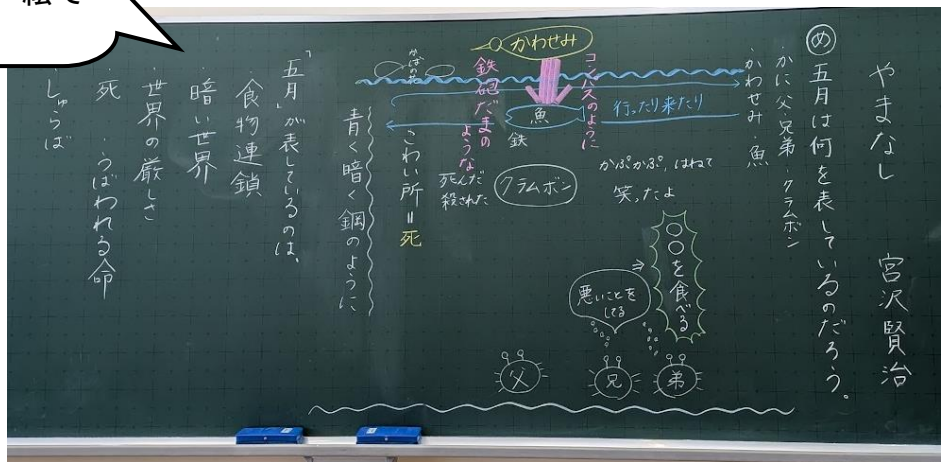


十二月が表しているのは

理由五月や十二月ではどうらも天井から落ちてきて、五月では、かわせみが落ちて、絶ほうやきようふの気持ちになり十二月では、やまなしが落ちてき、夢や希望、にわい(幸せ)などの気持ちになった!

A photograph showing two students at a desk in a classroom. The student on the left is looking at an open book. The student on the right is writing in a notebook with a pen. A third student's head is visible in the foreground, looking towards the camera. The background shows a whiteboard with Japanese text and a green marker.

全体で出てきた考えをまとめ、絵でも表現。



「十二月」の板書

グループで話し合った十二月の世界観を、文章と絵で掲示しました。